

ねりま・ごみフォーラム

生ごみから考える  
ねりまの暮らし

同乗体験レポート



## 朝7時に集合。回収ルートの確認です

二週間に一度の生ごみ回収、今朝は、回収トラックの持ち主でもある会員の駐車場に集合です。

会員は、現在練馬区内に28名。今日は全部で23軒のお宅を回って生ごみを回収。早速トラックに乗って、その作業に参加させていただきました。

地図を広げて、まずは回収ルートの確認。会員のお宅を一軒一軒回るために、区内をぐるっとひと回りするようなルートになっています。その後は、一息つく間もなく協力して頂いている農家二軒のうち、一軒の堆肥場へ、生ごみをおろします。この行程、最初の駐車場に帰るまでに、4時間ほどかかるそうです。さて、これからどのような作業が待っているのでしょうか。



↑  
練馬区内に広がる回収ルート

## これは想像以上の仕事でした

回収作業は、運転手役の会員と、回収助手二人一組で行っています。移動の車中は、いろんな話をするのに、とてもいい空間。活動にまつわる話のあれこれを聴いていると、同乗の会員の方から、ごみにまつわる話や回収についての苦労話など、色々なエピソードも飛び出しました。

トラックから降り降りして、最大8キロぐらいある生ごみ入りのバケツを運んで、次々と荷台に持ち上げていく作業は、大変な仕事。「雪で車が出せないような事がない限り作業は行う」というのですから、環境に対する意識が高いとは言え、回収に携わる方々には頭が下がります。

**会**員のお宅の生ごみを回収しながら、練馬区内を駆け回っている、ねりま・ごみフォーラムさん。

その活動に協力している農家に生ごみを搬入し、堆肥として利用してもらう実践的な活動を行っています。

さて、回収の現場はどんな様子でしょうか？レポートしました。

まち活  
つうしん ⑪  
ねりま5づくりセンター 取材日:2009.01.10

## 連絡用の袋や声の掛け合い

何分かトラックに揺られて、回収先に到着。気軽にあいさつを交わすことも、またある所では、ねりま・ゴミフォーラムさんが提供している連絡用の袋の中に、生ごみ回収についてのメッセージもありました。

生ごみを自分の庭などに入れる場合、「今日は回収しなくていいですよ」という連絡があるようですが、回収の時間が早いので、時には出し忘れてしまう方もいます。そういう時には、家の前で電話をすることも忘れません。回収する側のちょっとした気遣い、そして、回収される側からの感謝の気持ちは、心がホッとして、「やって良かった!」と思わせてくれます。活動を続けていくには、コミュニケーションが大切なんだ、と改めて実感しました。



連絡袋に「寒い中ありがとうございます」のひとこと

重さを書いていないバケツは、ちゃんと量って、データをとっています

## 生ごみを積んで井口農園へ

回収が終わり、今回の搬入場所である井口農園に到着。ちょうど畑で野菜を収穫中の方がいらっしゃいました。畑の一部を借りて、野菜を育てているそうですが、「自分たちが使っている堆肥には、生ごみからつくられたものが入っている」ということをしっかりご存知でした。畑の手伝いをしている子どもたちは「この土には象のハナコの糞も入っているんだよ〜!」と元気いっぱい。

ここで取れる野菜はおいしいという言葉が印象的でした。



ねりま・ごみフォーラムの

本間さんに

聞きました。



## Q. 生ごみ回収の活動の中で、いま何が一番必要だと感じていますか？

活動の中核となる**スタッフの数**を増やすことです。それは回収スタッフへの負荷の減少と活動の活性化となります。そのために、活動への参加者と回収スタッフとの**コミュニケーション**を図るための**講習会**や**見学会**など、**出会いの場**を増やすことに努めています。

## Q. 今後、どのような活動の展開を考えていますか？

行政も交えた生ごみの回収システムの確立を目指しています。そのために**区民**による回収システムの確立が必要で、区民をいかにして**能動的**に活動に係ることができるようにするかの**ノウハウの取得**を模索しています。

## ねりま・ごみフォーラムについて

設立 2004年10月

活動歴 4年

活動テーマ

生ごみ回収の継続的改善と連携強化

活動内容 (一部紹介)

環境月間行事参加

環境リサイクルフェア参加

環境サロン共催 (2006, 2007年)

生ごみ堆肥化実験 (2006, 2007年)

生ごみ回収の仕組み作り試行

(2007, 2008年)

練馬区民環境行動連絡会

講演会の幹事開催 (2007, 2008年)

活動場所

区内全域

団体連絡先

tkm3becci@ac.cyberhome.ne.jp (本間)



井口農園の堆肥の山。これが有効活用されるといいな。



練馬まちづくりセンターは

### “まちづくり活動助成事業”で、

ねりま・ごみフォーラムの活動を応援しています。

まちづくり活動助成事業とは、まちづくり活動を行っている団体を支援する事業です。当センターのまちづくり活動助成には3つの部門があります。

【はばたき部門】身近な生活空間の保全・改善・創造のための活動への助成です。

【たまご部門】これから身近な生活空間の保全・改善・創造のための活動に取り組むにあたり、事前の学習をおこなうこと に対しての助成です。

【テーマ部門】身近な場所で生き物を呼ぶ空間をみんなで楽しみながら創りだす活動への助成です。

練馬まちづくりセンターとは…

練馬区民が住み続けたいと思えるような美しい地域環境と豊かな地域社会を実現するために、区民の主体的なまちづくり活動を支援するとともに、区民・事業者・行政から独立し連携を図る、中間的な立場から協働型まちづくり事業を実践する組織です。

## 取材日記

生ごみのリサイクルは環境の面から良いことだとは思っても、やはりその臭いを嗅いでしまうと、自分が出した生ごみとはいえ、自宅で生ごみを溜めて堆肥をつくるという事に対して尻込みしてしまいます。会員の方も、においの問題、手間など、生ごみを自宅でリサイクルすることに対して、家族の理解を得るまでとても大変だったとおっしゃっていました。

区では、家庭用のコンポスト購入の補助をしていますが、やはりこれだけ密集して生活をしていると、においの問題もあるし、たとえコンポストで堆肥化しても、それを個人の家で全て消費するには限界があり、どうしてもごみとして捨てざるをえない場合があるそうです。おそらく、行政のサポートや仕組みを作らないと、うまく循環していかないのではないかと一例えば、区民農園や市民農園の一区画に、実験的に生ごみの堆肥場を作ってみて、できた堆肥を使う、あるいは、体験農園利用者に、協力をお願いするという方法もあるのではないのでしょうか。

都内で最も広い農地を持つ練馬で、自分たちが出した生ごみを肥料にして、地産地消で生活するという事は、ライフスタイルの一つとして、とても魅力的なことだと感じます。